令和２年度　教育活動の重点

確かな学力

◇単元で育てたい資質・能力を明確にして、「わかる・できる授業」づくり

・単元を貫く課題を明示し、ゴールの姿をとらえさせて、生徒が見通しをもって学習できるようにする。

・生徒の興味関心や学習意欲を喚起できるように、課題設定を工夫する。

・自己評価や次時へのつながりなど、学ぶ意欲が高まるように振り返りの場を工夫する。

◇指導法や教材・施設等を工夫して、学習をより「個別化・最適化」

・ICT機器や教科教室の活用など、学習意欲が高まるような施設・設備の活用を工夫する。

・ティームティーチングや習熟度別指導を取り入れ、個別支援の充実を図る。

◇評価方法を工夫して、より「確かな評価の在り方」の再確認

・討論やﾌﾟﾚｾﾞﾝﾃｰｼｮﾝなど、多様な表現活動を取り入れ、生徒の能力を多角的に評価する。

・「より確かな評価」「指導と評価の一体化」を目指して、評価の在り方について研修する。

◇効果的な課題や学習方法を指導して、「力がつく家庭学習」の習慣づくり

・自分の意欲や習熟度により応じた課題を選択できるようにする。

・より効果的な自主学習のしかたについて指導し、自分の工夫を反映させて主体的に家庭学習に取り組めるようにする。

自立・自律・協働

◇「自主的活動や自己決定の場」としての特別活動

・共通な問題に対して学級会で話し合う場を設けるなど、自分たちで問題を解決できるような活動を重視する。

・教師集団全員で生徒一人ひとりと共感的人間関係を築き、生徒の自己決定に対して支援する。

◇「共感的な絆づくりの場」としての学級活動・部活動

・生徒会活動や部活動を、「生徒同士の共感的な絆づくりの場」ととらえ、活動を計画する。

・部活動部長会を定期的に設け、目標や活動内容をお互いに確認しあう。

・ｿｰｼｬﾙｽｷﾙﾄﾚｰﾆﾝｸﾞなどを取り入れ、自分の感情をｺﾝﾄﾛｰﾙして、生活場面や規範にふさわしい行動ができるようにする。

◇「よりよく生きるための道徳性」を高める道徳教育

・道徳主任を中心に、指導計画の実施状況、授業や評価について積極的に情報交換する。

・道徳の時間だけでなく、教育活動全体を通して道徳力を高める指導を実践する。

◇「見通しを持ち計画的に生活する力」を育てる学級指導

・一年を教育活動の重点を意識した８つの期間に分け、見通しをもって生活できるようにする。

・「生活ノート」を活用し、生活の課題を意識して、帰宅後や週末の生活を計画させる。

安全・安心・信頼

◇生徒の活動・活躍の場を地域に広げる「地域とともにある学校」づくり

・公民館と連携し、学校と地域との情報提供や行事等の連絡調整を行い、地域との連携を深める。

・「生徒の生の姿こそ何よりの情報発信」の方針の下、休日の地域での活動を積極的に奨励する。

・地域の高齢者施設や幼児施設と連携し、生徒会の地域貢献活動を奨励する。

◇職員・生徒が高い危機意識を備えた「安全・安心の学校」づくり

・「～だろう」ではなく「～かもしれない」という視点でﾘｽｸﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄにあたる。

・「報告・連絡・相談・記録」「すぐ報告すぐ行動」「チーム対応」を徹底し、ｸﾗｲｼｽﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄにあたる。

・様々な危機場面を想定した多様な避難訓練を企画し、職員・生徒の危機管理能力を高める。

・心のアンケートを定期的に実施するとともに、生徒の様子や情報を常に職員で共有して、「全ての教職員で全ての子どもを見る」という意識で指導にあたる。

◇PTA活動や特別活動を通して相互信頼を高める「支え合う学校」づくり

・通信やHP、保護者メール配信サービスなど、生徒の活動の様子を伝える機会を設ける。

・青少年育成推進委員や民生児童委員らと連絡を取り合い、生徒や地域に関する情報を共有する。

・行事や部活動、PTA活動等は「教師の姿勢を見せる場」。「共働」の姿勢で教育活動にあたる。

◇自主的活動や自己決定の場としての特別活動
◇共感的な絆づくりの場としての学級活動・部活動
◇よりよく生きるための道徳性を高める道徳教育
◇見通しを持ち計画的に生活する力を育てる学級指導

◇生徒の活動・活躍の場を地域に広げる「地域とと
◇職員・生徒が高い危機意識を備えた「安全・安心の
◇PTA活動や特別活動を通して相互信頼を高める「

,にある学校」づくり
)学校」づくり
支え合う学校」づくり